日刊 動労千葉

86. 10. 21

No. 2386

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉砕！

自信を持って闘いを進めよう

木更津支部大会・全力決起方針を確立！

十月九日、動労千葉・木更津支部第九回定期大会が執行部・代議員、そして多くの傍聴者が出席するなか開催され、この一年間、支部組合員一丸となって様々な闘い、取り組みについて総括し、第三波闘争に全力で決起する方針を確認して大成功のうちに終了した。

二波の闘いが〝血の入れかえ〟＝広域配転〟を阻止してきた

十三時に大会は開催され、議長に永島氏を選出した後、斉藤支部長があいさつにたち「国鉄分割・民営化をめぐる情勢は、われわれにとって正念場をむかえた。国鉄国会がはじまり、三百議席のおごりたかぶる中曽根は、スパイ防止法、GNP一％、SDI、靖国・天皇、間接税の矢継早の攻撃をかけるなかで『国鉄改革』に異常なまでに執着を示し国鉄労働運動つぶしに全体重をかけるものとして行ってきている。

われわれは、この一年間、当該国鉄労働者自ら分割・民営化攻撃粉砕の闘いに決起した。五千万署名、地域集会、第一波スト、三月ダイ改＝業務移管阻止、そして第二波ストを闘う中で広域配転をくい止めてきた。役員が「人活」に送りこまれた生産点の国労組合員がどのような状況に置かれているのかを見たとき、われわれの闘いが正しかったと確認できる。その結果二八名解雇攻撃がかけられてきたが、現情勢の中でそれなりの覚悟をもって闘った。今、第三波へむけて上映・物販運動を展開してきた。当局は団交を無視・形骸化し『十一月ダイ改』を強行せんとし、十一月以降、〝血の入れ換え＝広域配転〟をも策している。こうした中で今大会で今後どう闘いぬいていくのか活発な論議を訴える」と固い決意を述べた。

地区労運動をリードして

そして、来賓の篠塚木更津地区労事務局長から「地域の闘いを先頭で担っている動労千葉に地区労運動をリードしてほしい」と連帯のあいさつが行われた。

続いて、本部の水野副委員長・白井執行委員からあいさつがなされた。

檄電が紹介された後、経過報告、運動方針の後質疑応答に入り、活発な論議が行われた。

運動方針・スローガンを採択した後、支部長音頭でガンバロー三唱し終了した。

新たな執行体制

支部長	斉藤　勇	（四四）	気運士
副支部長	外山義章	（二九）	車検係
書記長	山中茂男	（二九）	気運士
執行委員	木田勇夫	（四五）	〃
〃	白石正隆	（四二）	〃
〃	栗原惣一郎	（四〇）	事務係
〃	鈴木嘉夫	（四〇）	車検係

順法闘争を貫徹しよう（10/20.21.22）

10月20日（順法初日）当局の闘争破壊策動を許すな

順法闘争初日 21万人に影響

千葉動労

国鉄千葉動力車労組（中野洋委員長、九百六十七人）の順法闘争が二十日の始発から始まり、この日は総武快速、内房、外房線など十線区で上下二百六十本が十七―二分遅れ、通勤・通学者ら約二十一万人の足が乱れた。

同労組は十一月のダイヤ改定で約四百人の余剰人員が出ることなどに抗議し、二十二日まで始発から正午までを主な対象として順法闘争を続ける予定。

（朝日 10/21）

21万人に影響

千葉動労が順法闘争強化

国鉄分割・民営化に反対して順法闘争をしている国鉄千葉動力車労組（中野洋委員長）は二十日の始発から、安全速度の厳守など闘争戦術を強化した。

この影響で、午前九時までに、総武線、外房線などで上下二百六十本が最高十七分遅れ、約二万人の足が乱れた。

（毎日 10/21）

ニューススポット

千葉動労が順法闘争強化

千葉鉄道管理局のまとめによると、この影響で、午前九時までに武蔵野、京葉線を除く総武快速など同管理局管内の十一線区と横須賀線で上下計百四十五本が十七―二分遅れ、通勤通学客など十四万人の足が乱れた。順法闘争は、正午まで続けられ、二十一、二十二日も同時間帯で行われる。

（読売 10/20）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！